

ひまわり合宿入院のご説明

【目的】

学校や社会の中で傷つき、生活全体がうまくいかなくなっている、不登校や引きこもりの子どもが、子どもの集団や病棟の分教室のなかで自信を取り戻していくことを目指します。

【対象】

自分の考えで入院を希望し決断できる中学1年生から中学3年生までの子どもが対象です。当院の児童思春期科医師が外来で診察をした上で、プログラム参加が可能かどうか判断します。

【募集人員】

4名以上

【期間】

5月、10月、1月にスタートします。原則1クール3ヶ月ですが、学期末にかかる場合などは、期間が若干変動する場合があります。

【場所】

大阪精神医療センターみどりの森棟ひまわり部門（児童思春期病棟）

【費用】

入院費用（健康保険が適用されます）とおやつや生活必需品やレクリエーションなどの費用をご負担いただきます。詳細については、ホームページに掲載している「よくあるご質問」をご確認ください。

【治療内容】

1. 生活リズムの獲得

病棟での生活は、起床、消灯、食事などの時間が決められているので、規則正しい生活リズムを身につけていきます。

2. 同年代の仲間関係での傷つきからの回復

引きこもり、不登校といった同じような悩みを抱えた子どもたちと一緒に生活し、課題に取り組み、遊ぶことで、「同年代の仲間を作れた」という達成感と自信を取り戻していきます。スタッフがその過程を見守り、援助することで、関係作りを行っていきます。具体的には遊び、スポーツ、製作、料理、ソーシャルスキルトレーニングなどの集団活動の場を活用します。

3. 大人への信頼感を取り戻す

学校や社会の中で傷ついた子どもは大人への信頼感も失っています。

以下のような方法で大人との信頼関係を作ります。

- ・看護師からの日常生活の助言、援助を通じて。
- ・看護師、作業療法士との遊びや活動を通じて。

- ・学校の先生との少人数授業を通じて。
- ・医師、心理士との自分と他人の気持ちや考えについての理解を深める作業を通じて。

4. 学校への恐怖心、嫌悪感の治療

「学校」、「先生」、「学業」、「テスト」などの言葉やイメージに対して恐怖心、嫌悪感を持つ子どもも少なくありません。こういった子どもも、一見普通の学校らしくない当院の分教室で先生との密接な関わりを進めていくことで、学校に対する安心感を取り戻していきます。

なお、分教室を利用するには大阪府立刀根山支援学校への転籍手続きが必要です。

5. 薬物治療

睡眠リズム障害や不安やかんしゃくなどの症状に対して、必要があれば主治医が薬物治療を提案し、保護者の方とご本人の同意の下で実施していきます。

6. 家族支援

親の会「おひさま」を各クールに2-3回実施し、保護者とひまわり合宿のスタッフと交流の場を作っています。

7. 退院後の連携

入院中に得られた情報を元の学校など子どもと関わる機関に提供し、上手な関わり方や過ごしやすい環境の整え方などを学んでもらいます。また、すぐにクラスに戻ることが子どもの負担になると判断される場合には、クラス以外の居場所作りを学校と話し合います。

これまでのひまわり合宿を経験した子どもと親の声です。

本人：「色々なことを経験して自信がもてた」「KYが少し改善された」「ありのままの自分でいれた」「何かあったら相談できたのがよかった」

親：「人と接するようになって明るくなりました」「親も子も色々なことをのりこえられた結果、子は自信をもち、親は少し離れて見守ることで気づきを多く得られました」

希望される方は、児童思春期外来初診の予約をお取り下さい。

外来初診の予約、お問い合わせは、大阪精神医療センター医療福祉相談室まで。

地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪精神医療センター 医療福祉相談室

電話（代表） 072-847-3261

FAX 072-840-6206

ホームページ <http://pmc.opho.jp/tiryou/midori/himawari.php>